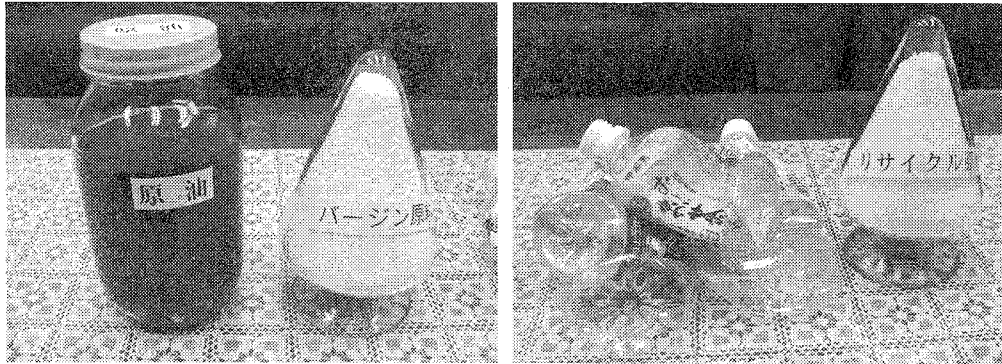


カーボンニュートラルの再生ペレット

製造段階のCO₂がゼロに リサイクル業界初の試み

協栄産業

合成樹脂再生加工販売や産業廃棄物収集運搬業・処分業、一般貨物運送業などを手掛け



原油でつくったバージン原料(左)と使用済みPETボトルでつくったリサイクル原料(右)

る協栄産業(本社・栃木県小山市、古澤栄一社長、☎0285・22・7988)は、原料製造段階でのCO₂排出量を実質ゼロにできる再生PET樹脂「カーボン・ニュートラル・ペレット」を商品化、販売に乗り出した。同社で製造する再生PET樹脂(ペレット)は石油由来のバージンPET樹脂に比べて63%という高いCO₂削減効果があるが、今回の新製品は残りの

37%分のCO₂を同社が所有する排出権(CER)を活用し、カーボンオフセットで相殺するもの。リサイクル業界初の試みで、環境配慮に熱心なお客様から非常に大きな反響が出ている。これに 대응するためにもCO₂の削減効果が社会に見える用途開発を急ぎたい(古澤社長)と述べている。

同社はプラスチックのマテリアルリサイクルを主力事業とする企業で、国内に栃木、小山、結城、滋賀、広島に工場を有している。中でも小山工場は最大の規模を持つ同社再生樹脂の主力工場であり、再生PET樹脂を中心として異物を徹底的に除去したペレット原料や特殊コンパウンド原料を量産している。

加工処理を行う廃プラスチック(ECOプラスチック)はPET、PP、PE、PS、A

工場に搬入されたECOプラスチックは粉砕、保管粉砕受け入れ、混合(第一次)、素材チェック、配合・調色、混合(第二次)、造粒、品質検査、荷造りをして再生ペレットのユイザーに出荷する。

同社の再生PET樹脂(ペレット)について、三菱UFJリサーチ&コンサルティングに算定してもらったところ、バージンペレットに比べ、CO₂の排出量が63%少ないことが分かった。

「カーボン・ニュートラル・ペレット」は、環境省が定めるカーボンオフセットを活用して開発されたもの。再生PET樹脂(ペレット)の製造段階で排出される残りの37%分のCO₂について、同社が従来から保有していた排出権(CER)でオフセットし、CO₂排出量を実質ゼロにする。この排出権(CER)は中国やインドにおける風力発電由来の排出権(CER)で、計5000ト取得している。